令和２年度　第１回平塚市総合教育会議　議事録

開会の日時
　令和２年１１月２７日（金）１３時３０分から１４時５５分まで

開会の場所
　市役所本館　３階　３０２会議室

会議の構成員
　市長　落合　克宏　　教育長　吉野　雅裕　　教育委員会委員　林　悦子
　同委員　目黒　博子　　同委員　梶原　光令　　同委員　守屋　宣成

関係部課長等
　学校教育部長　石川　清人　　教育指導担当部長　川崎　登　社会教育部長　平井　悟
　教育総務課長　宮崎　博文　　学務課長　市川　豊　　教職員課長　岩田　裕之
　教育指導課長　石井　鮮太　　学校安全担当課長　斗澤　正幸
　教育研究所長　鈴木　真吾　　子ども教育相談センター長　神田　陽一
　社会教育課長　鈴木　和幸　　中央公民館長　藤田　忠義
　教育総務課教育総務担当長　太田　恵　　同課主査　藤井　恒平

事務局
　総務部長　高橋　孝祥
　行政総務課長　石川　亜貴子　　同課行政管理担当長　岩田　浩二
　同課主査　大木　真音　　同課主任　沼田　敬輔

傍聴人
　０人

会議概要
１　開会
【総務部長】
　それでは、定刻となりましたので、これより令和２年度第１回平塚市総合教育会議を開催いたします。私は総務部長の高橋と申します、どうぞよろしくお願いいたします。
　会議を始めるに当たりまして、配布資料の確認をさせていただきます。まず本日の次第が、お手元の１枚。それから構成員名簿が１枚。資料１といたしまして「平塚市 新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン」を両面印刷で５枚、資料２といたしまして、「学校におけるＩＣＴの活用について」を両面印刷で１枚お配りをしております。過不足ございませんでしょうか。
　それでは、開催に当たりまして、教育委員の変更がございましたので、御紹介をさせていただきます。９月３０日に任期満了に伴い、水谷尚人氏が退任をされまして、１０月１日からは、後任として守屋宣成委員が就任をされております。
　それでは、守屋委員から御挨拶をお願いいたします。

【守屋委員】
　守屋と申します。まだまだ分からないことが沢山ありますが、しっかりやっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【総務部長】
　ありがとうございました。次に、落合市長から、御挨拶を申し上げます。

２　平塚市長　挨拶
【市長】
　皆様こんにちは。市長の落合でございます。本日は大変お忙しい中、令和２年度の第１回平塚市総合教育会議に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。
　教育委員の皆様には、日頃から子どもたちの健全な育成、また、本市教育、行政の充実、発展に多大なる御尽力をいただいております。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。本当にいつもありがとうございます。
　さて、新型コロナ感染症の感染者がまた増えてまいりまして、「流行の第３波を迎えている。」また、「現在の第３波は、家庭内の感染や６０代以上の方が目立つ」と言われております。
　各学校からも様々な情報、検査の情報などが寄せられていますが、感染の防止に先生方を始め、教職員の皆様や教育委員会が、最大限の注意を払って学校の生活を送っていられるのでないかと思います。
　日々、子どもたちの健康管理、また安全の確保に努めていらっしゃる学校関係者の皆様に改めてお礼を申し上げたいと思っています。
　さて、現在の平塚市の感染状況ですが、昨日現在で累計が１７５人です。死亡者が２人。しかし、およそここ何箇月かは、重傷者はなかなか出ておりません。軽症者８０%、１５％ぐらいが無症状、中等症が５％以下という状況です。
　実は１０月が一番多くて４７人、１１月が昨日現在３３人で、１０月と１１月で増えておりますが、何とか持ちこたえている状況です。これもひとえに、市民の皆様、また事業所の皆様、そして学校関係、子どもの施設、高齢者の施設、障害者の施設が懸命に予防対策をしている結果だと思います。お蔭様で、クラスターが平塚の保健所管内、平塚市の中では１件だけしか起きておりません。そういう意味も含めて、第２４回のコロナ対策の本部会議の中でも、「どのように安全対策をしながら、経済を回していくか、人の動きを作っていくか」について検討しました。今後は、ウィズコロナの中で、経済活性化も含め、平塚市内の動きを少し進めなければいけないと思っているところです。
　さて、本日の協議・調整事項は「コロナ禍における学校生活」です。
　新型コロナの感染状況は刻々と変化し、しばらくは予断を許さない情勢が続くと思います。私自身は、学校の現状を深く知ろうと、先週はオンライン会議をやりました。子どもさんを持つ親御さんとの意見交換、またＪＣ-平塚青年会議所-が主催する高校生との意見交換で、GIGAスクール等の話し合いをして、提言もいただきました。こういうことも踏まえて、教育関係に携わる皆様と直接いろいろ話をさせていただきながら、前に進めていきたいと思っています。
　こうした中から行政の役割としては、子どもたちが安心して学べる学習環境をしっかりと整備することが大切だと思っています。改めてその責任を感じ、今日は皆様と意見交換を通して、これからの学校生活のあり方などにつきまして、じっくりと考えていきたいと思っております。
　結びに、平塚が目指す「未来の礎を築く教育のまち平塚」の実現に向けて、有意義で活発な御議論いただきますようお願い申し上げ、冒頭の御挨拶に代えさせていただきます。
　本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【高橋部長】
　ありがとうございました。それでは、今年度最初の総合教育会議となりますので、私の方から名簿順に御出席の皆様の御紹介をさせていただきます。お座りになられたままで結構ですので、一言ずつ御挨拶を頂戴したいと思います。ただいま、落合市長と守屋委員か

ら御挨拶をいただきましたので、続きまして、吉野教育長から御挨拶をお願いいたします。

【吉野教育長】
　吉野でございます。二期目になります。今日はよろしくお願いいたします。

【総務部長】
　ありがとうございました。次に、林委員、お願いいたします。

【林委員】
　教育委員の林でございます。普段は神奈川大学でオンラインの授業をやっておりますので、その立場から今日少しお話をしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【総務部長】
　ありがとうございました。次に、目黒委員、お願いいたします。

【目黒委員】
　３年目に入りました目黒でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【総務部長】
　ありがとうございました。梶原委員、お願いいたします。

【梶原委員】
　梶原です。東中原で内科を開業しています。すぐそばの松が丘小学校の校医をやっています。よろしくお願いいたします。

【総務部長】
　ありがとうございました。
　なお、本日、事務局といたしまして、市長部局、教育委員会関係部課長及び担当が出席をしておりますので、御承知おきいただければと思います。
　では、次第の３にございます。「協議・調整事項」に移らせていただきます。ここからは、平塚市総合教育会議設置要綱第３条の規定に基づきまして、落合市長に進行をお願いいたします。

３　協議・調整事項
【落合市長】
　それでは、平塚市総合教育会議設置要綱に則りまして、私の方で進行を進めさせていただきますので、どうぞ御協力のほどよろしくお願い申し上げます。
　まず「コロナ禍における学校生活」ということで、どういう状況になっているかも含めて、事務局から説明をお願いいたします。

【教育指導担当部長】
　教育指導担当部長の川崎でございます。
　現在の学校の状況を、４月から遡りまして説明させていただきます。
　平塚市立小・中学校及び幼稚園につきましては、政府からの要請で３月２日から一斉休校に入り、その後卒業式、始業式、入学式などを挟みましたが、４月には緊急事態宣言が発令されたことを受けまして、最終的に５月３１日まで休校措置を延長し、６月１日から

の教育活動再開となりました。
　再開した当時は、安心・安全に過ごせる学校作りを重視することから、「平塚市　新型コロナウイルス感染症に対応した教育活動再開ガイドライン」を関係各課で作成し、学校における感染症対策について示し、４週間の分散登校を実施しました。その後、通常登校につきましては、「持続的な学校運営のためのガイドライン」を作成し、感染拡大防止対策を施した上で、教育活動を進めることといたしました。本ガイドラインは、感染状況の変化による内容の見直しを図ることとし、これまで２回の改定を行っております。
　なお、学習の遅れへの対応として、夏季休業期間の短縮や学校行事の精選などにより、授業時数の確保を行うとともに、学習活動の工夫、家庭学習の在り方をガイドラインに示しております。
　感染症対策の学校への支援としましては、マスクや消毒液、非接触型体温計といった感染予防に係る備品等の支援。県費負担ではありますが、感染症対策としまして、増加する消毒や事務作業などの業務を支援する「スクール・サポート・スタッフ」などの人的支援、そして「学校保健特別対策事業費補助金」として、学校長の裁量で迅速かつ柔軟に感染症対策や子どもたちの学習保障などに取り組むことができるよう、児童生徒数に応じて、１校当たり２００万円から４００万円を交付するなどの支援を行っております。
　文部科学省が提唱し、児童・生徒１人１台の端末を整備するなどの「GIGAスクール構想」につきましては、一斉休校などの影響を受け、整備スケジュールが前倒しとなり、国からの補助金が早期に交付されたことから、本市では、今年度中に小中学校の全児童生徒にタブレット端末を配備する予定で進めております。あわせて、本市独自で授業支援ソフトや各学級に大型モニターの導入も進めております。
　１０月初旬からパイロット校に指定した２校、富士見小学校と春日野中学校になりますが、こちらのネットワーク工事が始まっております。授業での活用開始は１２月中旬になると想定をしております。それ以外の学校につきましても、順次ネットワーク工事を進めているところであります。整備が終了した学校から配備をし、活用していく予定であります。
　教員の研修につきましては、１１月初旬に、Chromebookの起動、ログイン、モニターへの接続などの操作の研修を行いました。今後も、新しい学びのスタイルを進めていくため、ＩＣＴ機器などの活用及びＩＣＴ機器などを有効活用した学習活動について研修を進めてまいります。
　学校行事につきましては、運動会は小・中学校ともに、感染症対策のため、規模の縮小、内容の工夫、参加者の制限などを行い、多くの学校が１０月から１１月にかけて開催をしております。保護者から、実施したことへの感謝の声を頂いていると聞いております。小学校の林間学校も、感染症対策を十分行った上で、１０月から１１月にかけて実施をしております。場所を県立の宿泊施設から校内や、総合公園などに変更したり、デイキャンプにしたりする学校もありました。規模の縮小、日程や場所の変更はありましたが、子どもたちは満足した様子だったと聞いております。
　中学校の修学旅行は、進路などの状況も落ち着くことが見込まれる２月下旬に実施する方向で調整をしております。
　部活動につきましては、「平塚市新型コロナウイルス感染症に対応した部活動再開ガイドライン」を基に生徒の健康・安全を第一に考慮して、実施内容や方法を工夫した上で段階的な活動再開を学校に依頼をしてきました。現在も、活動時間の制限などを余儀なくされておりますが、今後も感染リスクを低減させる努力をしながら、活動機会の保障を継続できるように考えてまいります。以上になります。

【落合市長】
　ありがとうございました。今、教育指導担当部長の方から、今までの流れを話してもらいました。まとめると、感染症予防対策を行いながら学校運営をしてきている。これが基本だと思います。しかし、多くの点で制約がある。また、取り巻く環境は初めてのこと

で、全く違ったものだったということでした。
　状況が変化していく中で、全てが元のとおり戻っていくのは大変難しいと思っておりますけれども、種々の規制の緩和への対応などにつきましては、様々な工夫を凝らしながら、現場での学校運営に取り組んでいただいていると思っております。
　幸いにも、平塚市においては、学校現場で大きなクラスター、集団感染が起きていないというのが実情です。それだけ一生懸命対策を進めてきてもらったことを改めて感謝したいと思っております。
　５月に策定した「平塚市新型コロナウイルス感染症緊急対策」におきましては、９月までの小学校給食費の無償化や、休校中の学習支援を盛り込みました。また７月には、次の対策ということで「総合対策」を打ち出しました。その中では、学校教育における子どもたちの学びの保障と、そのための「GIGAスクール構想」の加速化、これはぜひとも進めてほしいとお願いしました。
　さて、緊急事態宣言が発令されていた時期から、９箇月程度の期間が経過をいたしましたが、学校教育に関係することで、印象深いこと、また発生した出来事への見解など、それぞれの教育委員がお持ちの御意見がありましたら、お話していただければありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

【梶原委員】
　梶原です。よろしくお願いします。
　報道によりますと、昨日、世界の感染者が約６，０００万人、死者は約１４２万人を超えたということです。現在、１日当たり約５９万人の感染者が増えているということで、最も多いアメリカでは、感染者が約１，２８０万人、死者は約２６万人。１日当たり約１９万人の感染者が増えています。
　日本では現在、感染者が約１３万６，０００人で、死者が約２，０００人。１日当たりでは約２，０００人の感染者が増えているということです。先日までは、１日当たり約１，０００人でしたが、最近では２，０００人となっており、非常に増えていることは間違いありません。特に大阪や北海道は、警戒レベル４に達するのではないかと言われています。
　平塚は先ほど、市長さんが仰いましたように、非常に落ち着いていて少なくて、非常に上手くコントロールできているのではないかと思います。ただ、この１週間少し多くなっているので、そういう面では気を付けていただいて、学校でも今までどおり３密を避けて手洗い、うがい、マスクが絶対に必要であると思いますので、今後ともよろしくお願いしたいと思います。
　やはり内科医をしていると、コロナを心配して来られる方が非常に多いです。ＰＣＲ検査ということであれば、医師会と調整しながらやっています。特にコロナは無症状の方も多くいますので、その辺りも注意しなければいけないと思います。
　今は、子どもたちの感染者が本当に少なく、２人だけですので、校内感染も起こっていないので、非常に上手くやっていただいているのではないかと思います。
　ただ怖いのは、これから寒くなるとインフルエンザが増えます。インフルエンザとコロナが同時流行しますと、まず医療機関はパンクしてしまうので、それを注意しなければいけないと思います。特に今年は、６５歳以上がインフルエンザの予防接種が無料になりました。そのため、非常にたくさんの６５歳以上の方が一気に来られましたので、正直言ってインフルエンザワクチンが枯渇しています。もうほとんどありません。うちでも多分、今日か明日でワクチンがなくなると思います。今朝２０人くらいがワクチン接種に来られましたが、ほとんどが近隣の方ではなかったです。要するに、自宅の近くでは接種できないので、集まってきたということだと思います。もう枯渇していますので、多分うちも明日、明後日、月曜日まであればいいかなというぐらいです。もし皆さん接種していなかったら、早めにどこかで探された方がいいかと思います。
　コロナの死亡率というのは、３％から５％くらいだと言われています。インフルエンザ

の大体１００倍から２００倍程度コロナの方が死亡率高く、コロナは怖いです。怖いですけど、感染力はコロナよりインフルエンザの方が高いです。大体１００倍程度インフルエンザの方が感染力は高いので、コロナが１００人出る間にインフルエンザは１０，０００人感染することになります。ですから、死亡率が低くても、いわゆる死亡者数はそれほど変わらないことになると思います。

特にインフルエンザは、コロナもそうですが、ＲＮＡウイルスですから、非常に変異しやすいです。変異しますと、力が強くなってしまうことがあります。だいたい数年に一度は変異します。

変異して最も大きな状況となったのは大正７年、１００年前ですね。知っていられる方もいられるかもしれませんが、「スペイン風邪」です。その時は世界で亡くなった方は、２，０００万人から４，０００万人と言われています。日本で亡くなった方は４０万人で、今の日本でのコロナの死亡率より、よっぽど高かったです。その次に、クラスターが起こったのは、昭和３２年の「アジア風邪」もかなり亡くなっていますし、昭和４３年には「香港風邪」。最近では、平成２１年に「Ｈ１Ｎ１パンデミック０９」がありましたけども、その時はそれほど多くはなかったですが、亡くなっていますので、インフルエンザも非常に怖く、コロナと一緒になると本当に大変ですので、是非気を付けてください。

もう一つ気になるニュースが最近出ているのですが、鳥インフルエンザです。鳥インフルエンザが、四国で３件、一昨日には福岡県、昨日も兵庫県で出ています。鳥インフルエンザというのは、原則的には人間には感染しません。ところが、鳥インフルエンザは豚には感染します。人間のインフルエンザは、鳥には感染しないけれど、やはり豚には感染する。豚の体の中で鳥のインフルエンザと人間のインフルエンザが握手してしまうことで、人間に感染しやすくなるともいわれています。

１９９７年に、鳥インフルエンザが香港で人間に感染するようになりまして、香港からインドネシアとかベトナムとかエジプト、中国大陸に感染しました。その時の死亡率は５９．３％。かかった方の半分以上が亡くなっています。これは、強毒性の鳥インフルエンザだったといいます。その次に起こったのが平成２５年、その時は弱毒性の鳥インフルエンザがやはり中国で広がりまして、弱毒性ですけど、人間にはかなり強い毒なので、３２．６％の方が亡くなっています。

鳥インフルエンザは非常に怖いです。特にこれは、中国大陸から来た渡り鳥が九州辺りの鳥に移してしまいます。今回は、強毒性のものだということなので、ウイルスが人間に感染するかどうかはまだ分かりませんが、もしそうだとすれば非常に怖いので、特に学校で鳥を飼っているとこもあるかもしれませんが、もしそこで鳥が死んでしまった場合、絶対触らないようにしてください。それから、野鳥が来て、死んでいても絶対触らないようにしてほしい、そのことを子どもたちに伝えてほしい。それはよろしくお願いいたします。以上です。

【落合市長】

ありがとうございました。梶原委員は、ドクターの立場から、コロナの対策、またインフルエンザの対策等について、お話いただきました。本当にありがとうございました。

続いて、目黒委員、お願いします。

【目黒委員】

よろしくお願いいたします。今、梶原委員のお話を伺って、気を引き締めていかなければいけないなということを改めて思いました。

現場の先生方の御苦労もさぞかしと思います。今までにない状況の中で、学校が再開されてからも、たくさんの戸惑いがあったことと思います。

子どもたちは、それぞれの生活環境の中でのストレス、自由に遊べないというようなストレスとか、学校生活の中のストレスなど、本当に様々なそれぞれのストレスを抱えて、

登校してきています。
　そんな子どもたちのために、学校の先生方は少しでも快適に、そして、安心して過ごせるようにということで、ああしてあげたい、こうしてあげたいという思いをたくさん持っていても、いろいろ制約があって、その思いと感染防止の間に入って、悩むことも多いと思います。学校現場でもいろいろ工夫してくださっておりますけれども、対応に苦慮することもたくさんあるのではないかと思いますので、是非、教育委員会を含めた関係機関と、学校が連携し対応していってほしいと思っています。
　子どもたちも、マスクの着用や友達との関わり方、また楽しみにしていた部活や学校行事の縮小など、これまでにないくらいの制約の中で、学校生活を送っています。ストレスがたまって、精神的にも不安定になることも多いと思うので、しっかりとした心のケアが重要になってくると思っています。また、感染者が身近にいる子、また自身が感染してしまった子に対しても、周囲の子を含めてしっかりと、ケアしていかなければいけないですけれども、学校の負担が大きい中で、全てを学校が抱え込むことはできませんので、関係機関や、また家庭、地域が一体となって、子どもたちが少しでも安心できるような状況にしていくことができればと感じているところです。

【落合市長】
　ありがとうございました。目黒委員からは、学校の教育現場の視点からの御指摘をいただきました。
　コロナ禍の中で大切なのは、心のケアです。お子さんを持つお父さん、お母さんともお話しましたが、やはり子どもは、表面的にはそこまで出ていないけども、今まで勉強したり生活したりしてきた中で、これまでと違った様子や不安感が垣間見えるという話をいただきましたので、その辺もフォローできるような体制を敷かなくてはいけないと感じました。
　ありがとうございました。では続いて、守屋委員お願いいたします。

【守屋委員】
　よろしくお願いします。私は今、子育て真最中の世代でございまして、富士見小学校に子どもが通っている状況です。３月に学校が一旦休校になる直前ぐらいから夫婦で話をしたのが、学校に行かせることをどうしようかと、すごく悩んでおりました。ただ、行かせることが全てではないにしても、やはり子どもの教育が止まるということは、この子にとっても良くないのではないかという葛藤を、たぶん各家庭でもされていたと思っています。その中で、それぞれの人が正しい情報を得て、判断をすればいいのでしょうけれど、いろいろな情報が飛び交ったりする中で、それぞれが判断をするということがすごく難しいところに来ているのかなと思っていますので、学校と保護者という中での情報共有をしっかりしていかなくてはいけないなと思っております。
　それともう一つは、先ほど市長からも御紹介いただきましたけども、平塚青年会議所でのウェブタウンミーティングということで、高校生でありますので管轄としては県の教育委員会ということになりますが、先輩として、自分たちが思ったことをお伝えさせていただいた中では、やっぱり学校と保護者という部分では、情報が下りてきている。
　保護者から子どもに下りてないところもあると思いますけれども、子どもたちからは、学校の方から私たちにも情報がほしかったという話がありました。中学生ぐらいであれば、自分で考えることもできるところはあると思います。学校の先生から、正しい感染対策の部分であるとか、考え方、注意しなくてはいけないことは何なのかというのを、学校の中でも伝えていっていただければ、今後、更に安心して生活することができるのではないかと思っています。
　学校行事では、運動会についてですが、富士見小学校も、運動会ではない形で、保護者を少し減らす形の中で、午前中だけで行ったと思います。保護者同士ですごく話が出て、同じ小学校だけじゃなくて、幼稚園で一緒だった保護者同士が、「うちの学校はこういう

ことになっています。」「うちの学校はこういうふうにやりますよ。」ということで、「何でうちはこういうことをしないのだろうね。」みたいな話が出ました。
　それぞれの学校ごとにいろいろな対策を先生方がとられているのはよく分かっているところでありますが、情報共有をしながら、保護者同士でも他の学校のいろいろな情報が入ってきているという状況も踏まえて、横の連携というのはすごく大事なのかなということを、今回のコロナウイルス感染症があったことで、強く感じたところでございますので、お話させていただきました。ありがとうございました。

【落合市長】
　ありがとうございました。今、守屋委員からお話がありましたように、私も若い人たち、子どもを持つ親御さんと話をして、各学校の対応や保護者への情報のあり方、それからもっと広いところからいうと、我々行政から、市民の皆さん、親御さん、子どもたちに出していく情報の在り方、共有のあり方は、このコロナ禍で大きな問題になったと思っています。
　私としてはやはり、プライバシーを侵害するような情報ではなくて、しっかりとした情報、例えば「ここにこういう人がいたから、我々はこういうことを対応します。だから、例えば子どもたちの近くにこういうものが出たので、こういう対応をします。」ということを、的確に伝えていくのが我々の責任だと思っています。
　話がずれてしまいますが、最初にコロナが出だした２月・３月の頃、神奈川県は地域名も全然出しませんでした。ですから、私から県に対して「せめて市町村でどのくらい感染者がいるかということを、保健所管内でもいいから出してほしい」と要望して、４月の途中から発表してくれることになりました。
　しかし、今出ているのは、この保健所管内の市町村、年代と性別、症状、感染経路というようなことだけです。対策をしなければいけない我々に、それ以上の情報が具体的に入ってこないというのは、大きな問題ではないかと前回の市長会の中でも、私も含めて強固に言っているのですけども、なかなか県は出してくれないのです。
　先ほど、平塚市の感染者は１７５人と申し上げましたが、これは累計の数で、病院に入っている人、それからもう治った人などの発表はありません。累計の数だけ積み重ねていくのもおかしな話であって、そういう今の状況も含めた中で、県は情報提供をしっかりしてもらわなくてはいけないし、やっていかなくてはいけないと思っています。
　本当に重要な御指摘だと思っています。ありがとうございました。続いて、林委員お願いします。

【林委員】
　守屋委員から保護者の方の御心配、そしてただいまの市長さんからの情報提供のあり方の重要性、本当にそのとおりだと思います。私の立場からは、「教える」という立場でのコロナ禍における学習環境について少しお話をさせていただきたいと思います。
　このコロナ禍というのはよく言われることですけれども、今まで経験したことがない事態ですので、小中学校の休校期間中に、親御さんも子どもたちの学習の保障というのはどういうふうにしてくれるのだろうかというような御心配を、受験生の方だけではなくて、広く御心配をされたと思います。もちろん学校でも最善の手を尽くしていらっしゃると思いますけれども、本当に大変なことばかりでございました。
　先生たちは、対面での授業ができない。そういう中で、この学習を補うための家庭学習用の課題を出しても、子どもたちが果たしてその課題をどのように理解しているのだろうかといったような状況を、リアルタイムで確認することができないという悩ましい状況が続いていたものと考えられます。
　先ほども申し上げましたが、私も大学で実際にオンラインでの遠隔授業を行っている立場から、いくつか経験上の留意点を申し上げたく存じます。特に、実際にオンラインでの授業が始まるに当たっての準備には、通信機器の取扱いに慣れるまでの間に、かなり時間

を要してしまいました。普段からＩＴ機器に慣れている先生方からすれば、こういった苦労は少ないのかもしれません。
　しかしながら、私のようなアナログ世代の人間にとりましては、キャッチアップできないところもあるのです。アナログ世代って、スイッチとかボタンをプチっと押した感覚で電源が入ったとか、オフになったとかですが、例えばｉＰａｄなどサッと触れるだけで画面がバババッと動いたりすると、パニックになってしまいます。この状況を戻すにはどうしようというところから、先ず触るのが嫌になってしまうのですが、なんのことはない、慣れてくれば、必ず戻す手段というのは、ワンポイントであるので、慣れればいいのですが、それまでは結構苦労いたしました。
　小中学校の先生方の中には、やはり年齢の高い先生方もいらっしゃいますので、同じように容易じゃないな、と感じられる先生方もいらっしゃると思います。ただ、振返って考えてみますと、時代が進むにつれて、黒板を使った板書で行っていた授業が、やがて教室でパワーポイント資料を提示するという時代になりまして、これがコロナの前までは普通でした。それがここに来て、ＩＣＴを利用した遠隔授業の推進という形に変わってきております。
　そもそもコミュニケーションというのは、人と人とが、対面で行い、身振り手振り、それから表情なども加わって、一番内容が伝わるというように言われております。こうして対面での授業ができないとなると、同じ内容を伝えるために、授業準備時間がどんどん長くなってしまっていると感じる今日この頃でございます。
　ただ、学校教育において再び長期の臨時休校となってしまった場合のことを考えると、当然ながら学習の機会を保障していくには、オンライン授業に多くのメリットもございますので、ＩＣＴ環境の整備は必須であると思われます。そのためには、まずは教える側の基盤整備といったものをしっかり図ることが大切になると考えております。

【落合市長】
　林委員、ありがとうございました。委員は神奈川大で教えていられる立場ですので、現場からの声ということで伺わせていただきました。
　各委員さんからいろいろ御意見をいただき、ありがとうございました。先生方の負担、梶原委員からは医療的な立場からの、また守屋委員からは情報共有など、本当にたくさん課題があったと思っています。そういった中、林委員からお話がありました学習環境の整備について、現在、本市では急速に進めている状況です。
　今、林委員からお話がありましたが、再び一斉休校などの不測の事態、例えば、あってはいけないですけど、大きな地震が発生した時に、私はスピード感を持った対応が必要だと考えています。そこで、教育長と教育指導担当部長にお願いして、何とか早く進めてほしい。国の「GIGAスクール構想」が前倒しになるような、交付金もありますので、頑張って進めてほしいというようなことをお願いしています。
　コロナ禍の取り組みの中で、教育分野ではそういう形で考えておりますが、行政全体としてもデジタル化は、避けては通れないと思います。
　９月に本市出身の河野大臣が行政改革担当大臣になって、「脱はんこ」を打ち出しています。そういう意味でだけではなく、私は、行政のデジタル化というのは、市民住民が、デジタル化によってより効率的に効果的にいろいろなサービスを受ける環境ができることを中心に考えなくてはいけないと思っています。
　７月の「総合対策」には「まちのＩＣＴ環境の向上を支援する」と盛り込みましたが、これは必要だと思っています。具体的には、新しい生活様式に対応した働き方を促すためのＩＴサービスの導入や人材育成確保に要する経費の助成。ここにはサテライトオフィスなどを実現するため補助を出すというようなものがありました。それから、繰り返しになりますが、「GIGAスクール構想」の取り組みもこの中にも含まれています。こういう取り組みからデジタル化を加速して、学校教育の現場での新たな日常を作り出すことで、子どもたち一人一人の個性に合わせた教育の実現を目指してもらいたいという思いを持ってい

ます。その辺りの教育環境の整備についての進捗状況も含めて、実際に統括をしてもらっています、教育長からのお話も伺いたいと思います。

【吉野教育長】
　それでは、私の方から平塚市の「ＧＩＧＡスクール構想」について話をさせていただきます。資料２に従って御説明します。
　まずネットワーク関係です。校内ＬＡＮの高速・大容量化を図り、同時に１，０００人が通信可能となる環境を整備します。また、学校の体育館が避難所になったときもフリーＷｉ−Ｆｉとして、そこで利用することが可能な環境を作ります。
　全児童・生徒に配備するタブレット端末ですが、７月に納入業者を決定し、「Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋ」を児童・生徒用、教員用等として２１，５４１台発注しました。配備時期ですが、１１月に教員の操作研修用として先行して教育研究所に５０台を、各学校には、パイロット校に指定した、富士見小学校と春日野中学校の２校は１２月中旬までに、それ以外の学校はネットワーク環境の整備が終了した学校から順次配備していき、全小中学校への今年度中の配備完了を目指します。
　それから大型モニターですが、これは市単独予算での配備となります。市長にはお礼を申し上げます。モニターの大きさは６５型。幅１４５センチ、高さ９０センチとかなり大型になります。これを全小中学校の普通教室に配備します。タブレットの画像等を大型モニターにＷｉ−Ｆｉでつなぐことで児童生徒に教材等が簡単に提示でき、話し合い活動等を活発にすることができるようになります。
　この他に、校外学習やグラウンドなど校舎の外での活用ができるようにするため、Ｗｉ−Ｆｉルーターを約２，０００台用意して、子どもたちに貸し出すことを検討しています。これによって、臨時休業等の際に各家庭におけるネットワーク環境を支援したりすることもできるようになります。
　ソフトウェア関係については、授業支援ソフトや学習支援ソフトを導入する予定です。
　クラウド関係ですが、一人一人にアカウント配布することで、どの端末からもアクセスすることが可能になります。
　パイロット校につきましては、既にお話させていただいたとおり、富士見小と春日野中の２校を指定して現在準備を進めているところです。
　臨時休校措置への対応ですが、端末配備が終了すれば、長期に及ぶ臨時休業のような措置がなされた場合でも、家庭の端末に動画を配信したり、双方向受信配信を使って子どもたちが端末から課題を学校に送ったり、あるいは学習ドリルソフトを使って教員が教材等の提示をしたりすることができるようになります。
　その他にも、欠席の連絡など学習以外でも幅広い活用ができるようになります。
　このように新しい教育環境を整備し、「ＧＩＧＡスクール構想」を実現していくことで、児童生徒それぞれが、授業中に自分の意見や考えをこれまでとは違った手段で、迅速に伝えることができるようになります。例えばこれまでは、先生の発問に対する子どもたちの意見を集約するときには、子どもたちを指名して先生が板書していました。この方法も有効であると思いますが、今後は、子どもたちが自分のタブレット端末に自分の意見を入力すると、瞬時に各自のタブレット端末の画面上にクラスのみんなの意見が集約され、更には大型モニターにそれを映し出すことができ、より効率的な授業を行うことができるようになります。また、個別学習にも、家庭学習にも活用できるので、学校を欠席している子どもたちにも対応できるようになります。
　このように、ＩＣＴを活用した教育はもちろん、通常の授業でも大きな効果を期待することができますが、今回のようなコロナ禍、あるいは災害時など大変な状況下においても力を発揮することができます。
　ただ、そのためには機器の整備だけでなく、指導する側の教員の力量を付けていくことが大切です。教員研修については教育研究所を中心に進めているところですが、今後もより一層充実したものにしてまいります。

【落合市長】
　ありがとうございました。今、教育長の方から、学校におけるＩＣＴの活用についての進み具合や、新しい形での授業の在り方などのお話もいただきました。先ほど守屋委員からお話がありましたけれど、この間、高校生との話し合いの中で印象的だったのは、子どもたちがもう結構ＩＣＴに慣れているとのことでした。いろいろなことに慣れていて、逆に「市長、先生たちの教育をしないといけないのでは…」みたいなことを何人かに言われました。でも、実際問題として、教える方が教えられるというのもちょっとどうかと考えさせられました。
　また先日、土屋小学校に防災訓練で行った時に、校長先生と教頭先生が１人１台の端末と大きなモニターが配備されることはとてもありがたいという話をしてくれました。でも、教える先生方もなかなか難しいとのことでした。逆に、子どもたちにも教わりながらもしっかりとこの環境を利用して新しい教育に対応していきたいという強い言葉をいただきましたので、本当にありがたいと私は思っています。
　確かに今の新しい学びのスタイルを進めていく中では、これから先、子どもたちにとって本当にいい環境が待っていると思うのですが、一方、教育の教える方の研修も含めて、いろいろな課題や問題があるに違いありません。
　これから向かう方向も含めて、全体的に考えていく必要があるのではないかと思っています。
　この辺りのお話や教育長のお話も伺って、各委員が感じられるところがあれば、お話していただけたらと思います。

【梶原委員】
　私事ですけど、私の孫は、父親がイギリスの大学からオファーを受けまして、現在、循環器内科を教えているため、小学校４年生のときから、イギリスに行っています。今は中学校２年生ですけど、イギリスは皆さん御存知のように、日本よりもコロナの感染者が多くなって学校閉鎖もありました。学校閉鎖になりましたら、翌日からインターネットでの双方向授業ということで、かなり長くやっています。双方向授業をやっている間は、その学校にも近隣の国の留学生が同じクラスに何人かいるらしいですが、近隣の国の人はすぐ自国の家に帰り、家で授業を受けている状況だったそうです。
　私の孫も夏休みに日本へ帰ってきたときは、日本で授業を受けていました。ただ、時差が非常にあるものですから、ちょっとしんどいとか言っていましたが、イギリスでは当たり前のように、インターネットで授業をやっているようです。そういう面では日本はかなり、今のところ遅れているという感じで、今回そういう面で「ＧＩＧＡスクール構想」は、非常によいことではないかと思います。
　日本の子どもたちも、最近はスマートフォンを扱ったりしていますので、我々、私みたいにアナログ人間よりも、よっぽど早く慣れると思いますし、それから先ほど市長が仰いましたように、むしろ先生の方が問題になるかなと思います。そういう意味で先生の苦労がかなりあるのではないかと、準備しなくてはいけないですけど、慣れていけば非常に有効なんじゃないかと思います。
　ただ、孫が言っていましたけど、インターネットで授業をやっているとやっぱりいろいろ問題点が出てきたみたいです。どんな問題があったのかというのはちょっと聞かなかったですけど、来月に入ったら日本に帰ってきますので、その時に聞いてみたいと思います。
　そういうことで、やっぱり対面のよい面もありますし、どちらも長所を取ってやらなくてはいけないかと思います。学校の先生は大変でしょうけど、よろしくお願いいたします。
　日本は、ハード面では「富岳」みたいに、世界一のコンピューターを持っていますけど、ソフト面がちょっと遅いですよね。先ほど市のサービスもデジタルでやるということで言っていましたけど、行政のデジタル化というのは、日本は非常に遅れているそうで

す。我々もキャッシュレスになると、何となくお金を使っている感じがしないし、ちょっといろいろ抵抗もあるんですけど、やはりこれからはそういう時代になっていくと思います。
　このタイミングを過ぎれば、日本の子どもたちにとってのデジタル化も進むのではないかと思いますので、皆さん方の御協力によって上手く進んでいくようにお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【落合市長】
　ありがとうございました。お孫さんの実体験の方から、やっぱり日本は外国と随分違うということでした。
　先日、新聞で見たのですが、日本の教育のデジタル化は、ＯＥＣＤ平均を下回って一番少なくて３６．５％。主要国はアメリカが８５％、英国が７０％、韓国が７６％でした。日本は３６．５％という非常に低い状況になっていますので、全教員がデジタルの指導力をつけなくてはいけないという問題も出ていました。そういうことも含めて、我々は環境整備をしっかりして、梶原委員のお話にありましたように、先生方は大変かもしれないけども、乗り越えてもらわないと。次の世代の子どもたちが育つための必要な努力だと捉えていただき、よろしくお願いしたいと思っています。
　ありがとうございました。続いて、守屋委員、お願いします。

【守屋委員】
　ＩＣＴの活用の部分については、一人の親として、調べれば調べるほど、授業が楽しそうだなと。自分がそういう時代ではなかったので、楽しそうだと単純にそう思いました。それが、コロナがあって前倒しされるということで、ある意味子どもたちにとってはすごくメリットのあることになるのではないかなと思っています。
　「ＧＩＧＡスクール構想」については、いわゆる緊急事態の時の対応の仕方ということで、コロナがあって、学校が緊急事態宣言での休校となった際に、子どもが家にいる中で、ずっとゲームをやってしまっているとか、そういうことをよく聞きました。
　その中で、先生方がいろいろな宿題だとかそういうものを出していただいていましたが、とにかく、うちでよく子どもに言っていたのは、学校に行っている時間は勉強しようと。本を読んでもいいし、何かお稽古ごとのことやっていてもいいから、とにかく学校に行っている時間は学校に行っているように勉強しないと、再開したときに身体が多分ついていけなくなっちゃうという話を妻としながら、とにかく学校行っている時間は何かしなさい、勉強しなさい、という話はしていました。
　ただ、親がその場にいればそういうことができるのでしょうけど、そうじゃない共働きの家族とか、子ども一人で家に残っているというようなことも聞く中で、そのときに、やっぱり対応をどうするのかなと思っています。話の中にもありましたが、今回、市で用意されたオンラインのシステムを先日、リトアニアの関係で私も使わせていただいて、ほぼＺｏｏｍと変わらない使いやすさでした。そんなに難しいシステムではないと実感をしておりますので、例えば、学校にタブレットが配備されるのであれば、こういったシステムを用いて、担任の先生がこの時間には「ここに入ってきてね」という形の中で、子どもの顔を見て、本来は直接会ってですけれども、その画面上でその子の状況が理解できる。子どもにとっても、担任の先生の顔が見えて、１日１回そういうことがあれば、少し精神的にも落ち着いて、ちゃんと勉強をやるというようなこともあると思います。先生から言ってもらえると、子どもは「あれやらなきゃいけないな」と思えるでしょうし、きっとやるでしょうから。そういったことをすれば、学力の格差というのは、少しでも減ってくるのではないかと、私自身は思うところであります。
　もう一つが、先生がシステムを使えるかどうかという話は、私自身はそういう使える世代ではありますので、３０、４０歳以下の人たちは大体使えるものだと思っています。
　それと思ったのは、民間の活用もしてみてはどうかと思いました。例えば、大学は率先

して、林先生も仰っていましたけど、オンライン事業に切替わるのが相当早かったわけですので、大学のゼミとの提携をしながら、東海大・神大と提携して、その学生たちが子どもたちと一緒に、オンライン授業を作ってみるとか、なんかそういうこう民間と絡みながらやっても面白いのかなというふうに思いました。意見になりますが、ありがとうございました。

【落合市長】
　ありがとうございました。親御さんの立場から、子どもさんが休業中のいろいろな対応や時間の過ごし方、また先生方の研修も含めた外部の力を利用されたらどうかという御提案など、ありがとうございました。
　続いて目黒委員、お願いします。

【目黒委員】
　今、いろいろ、オンラインの学習のこととか、登校できなくなった時のこととかっていうようなお話が出ておりましたけれども、私は元々学校にいたという立場で、普段の学習の中でのＩＣＴ活用というところで、ちょっとお話をさせていただけたらと思います。
　確かに私もまだまだ苦手な部分があるので、学校現場の負担も大きくなってきているのではないかなとは思いますが、ＩＣＴを効果的に活用した学習を進めていくっていうところでは、今までにもお話がありましたように、技能はもちろん、また情報モラル教育の面でも、教える側の一定のスキルは本当に必要不可欠だと思います。
　ただ現場では、スキルアップのための研修を受ける時間を生み出すのが難しいというのが現状ではないかと思います。
　ですので、学校でもパソコン教室ができたり、教員にもパソコンが配備されたり、というような流れの中で、これまでのＩＣＴを活用した授業づくりの研究や、事例などを上手く共有したり、積み重ねたりしながら、より良い学習を目指して進めていけるような仕組み、また準備をする時間の確保、こういったことも必要になってくると思っています。
　また、先生方に大きな負担がかからないようにするために、ＩＣＴを支援するスタッフ、そういう人がいるといいなと思っています。困ったときに、すぐに相談できる、それから協力してもらえる。私も困ったときにはすぐに教育研究所に電話して、いろいろ教えていただきながらやったことがたくさんありますが、たった一つの操作で、これまで１時間２時間、悩んできたことがスッと解決してしまうっていうことがありますので、何かそういう時のためにも、スタッフの人が身近にいてくれるとありがたいと思いますし、各学校にそういう人材を適正に配置していただけたらと思っています。
　ＩＣＴを活用した学習を進めていくということは、今までの話にもありましたけれども、登校していない不登校の子どもたちへの対応ということでも、メリットがあると思います。上手く活用することで、一人一人の子どもに寄り添った教育というものにつながっていくと思います。
　今、先生方の働き方についても見直しをしている時期でもありますので、今回の導入がスムーズに行われて、そして先生方にとっても、子どもたちにとっても効果的に使われるようになるといいなと思っているところです。

【落合市長】
　目黒委員、ありがとうございました。学校の現場では、今までＩＣＴを使わなかったわけではないけれども、端末が一度に入るわけだから、それに対応して支援をする人材も必要だというお話もいただきました。また、最初にGIGAスクールを入れるといった時に、ＩＣＴを支援するスタッフは必要だと、教育長や部長と話しました。しかし、人材の取り合いになってしまうのではないかというくらい、それぞれの自治体が考えていますので、その辺りを考慮して進めてもらっていると思います。そうした視点も、ありがとうございました。

では、林委員から、今まで聞いていただいた中での感想をいただけたらと思います。

【林委員】

再び私からは教える側から、学習コンテンツの充実について申し上げたいと思います。

オンライン授業では、いずれ双方向のリアルタイムに近いものが開発されてくるとは思いますけれども、当面は一方的に学習コンテンツを子どもたちに見てもらうというところから出発するものと思います。ですから、その内容の充実というのは大変重要だと思います。こういったコンテンツを既に導入している学習塾に通ったり、通信教育に慣れたりしているお子さんからすれば、抵抗感は少ないのかもしれませんけれども、みんながみんな同じスタートラインからではないという点にも、やはり留意しなければならないと思います。

ところで、先ほど目黒委員からも御指摘がございましたけれども、先生方のスキルアップのみならず、側面からサポートするスタッフということの体制作りも非常に重要だと考えております。先ほど市長からも御指摘がありまして、これからその辺を充実させていただきたいと思いますが、初めのうちはオンライン授業の立ち上げに戸惑う先生方も、私も初めとして多くおられると思います。ただ、少しの助言で解決できるというような小さなお困りごとには、ボランティア的なサポートスタッフの活用というのも、それこそ先ほど、守屋委員が言われたように４０歳代以前ぐらいの親御さんの方には、すごくＩＴのスキルに長けてらっしゃる方もいらっしゃいます。

その一方で、機器に関するあらゆるリスクや本格的なトラブルには専門的なインストラクターや緊急操作支援スタッフのような、そうした方の適切かつ即効性のある対応が必要です。

このようにサポート体制の棲み分けとその配置が非常に肝要になるのではないかと経験上強く思いますので、どうか、今一度その辺をよろしくお願いをいたします。

家庭のＩＣＴ利用環境によって、学習の幅に差が生じるといった影響もやはり懸念されます。必要に応じたＷｉ－Ｆｉルーターの貸し出しを十分考えておられると思いますが、果たしてその数が十分であるかどうかを精査し、確保をお願いいたします。先ほども申しましたが、当初は学習コンテンツの一方的な発信から始まるものと思いますけれど、やがて双方向で連携した対面授業に近いような環境を整えられるように、家庭での利用環境にも配慮していただけるとありがたいと存じます。

そして、これも経験則から申し上げますと、学業の成績だとか評価をどのように行うかは、非常に重要な検討課題になってくるのではないかと思います。学習評価の面では、直接対面していない中では、ドリルの答え合わせといったような単純な問題というのは、ＩＣＴの方が本当に早く解決できますが、従来型の中間テストや期末テストのような試験を実施することはほぼ不可能です。

大学の場合は、全てレポートでの評価ということになりますが、これはこれでレポート課題の作成にも、評価にもえらく時間がかかります。特に、いわゆる「コピペ」で、どこかから持ってきて、ペタっと張ってレポートを作成しているというのは、経験からいえばすぐに見破れます。ある程度は見破る観点というのがありますから、必ず出典を挙げなさいとか、あるいは語調が違うから自分で書いたところとプロが書いたところはすぐ分かる訳で、同じようなレポートが１０個以上出てきますと、これはもうアウトということになります。

そんなことで、教師の経験則から見破りは可能ですけれど、端末画面で長いレポートを何百も読んでいますと頭が痛くなってきます。もう眼精疲労を起こしている毎日であります。ですから、紙ベースで見ていくのと全く違う疲労というのもあるので、試験ができるということはありがたいなと、実感する今日この頃ではあります。試験問題は作ってしまえば、あとの採点は同一基準で簡単ですが、レポートは採点段階がなかなか大変です。

学校の先生方にとっては、学校生活と同じように子どもたちの様子を直に見ることができなかったりするので、これまでとは少し違う指導方法とか評価方法の検討がやはり必要

になってくるものと思います。
　いずれにしても短期間でＩＣＴ環境や学習コンテンツを充実させるということは容易ではないと思いますが、未来への投資ということからすると、非常に計り知れないほど大きなものがあると思いますので、しっかり推進していただきたいと思います。
　それには、学習環境としては教える側の習熟化と、家庭との連携を重点としてＩＣＴを援用した学校教育の理想を追求していくことが、大切になってくるのではないかと思います。私からは以上です。

【落合市長】
　林委員、ありがとうございました。教える側から、特に教師の側から大変な部分についても御指摘もいただきましたので、参考にしてもらえたらと思います。
　各委員から大変いろいろな御意見をいただきました。繰り返しになりますが、ここで体制ができるので、林委員もおっしゃられた通り、将来の投資という意味も含めて、しっかりと進めていかなければいけないと思っております。ただ、環境が整備をされるけれども、もっと大切なのは、環境整備されたものをどのようにしっかりと、正しく使っていくか、またそれを効率的に使っていくか、その辺がやはり一番の問題になってくると思います。ハード・ソフト両面において、いろいろ課題も出てくるだろうからそれらをどのように整理していくか、またよくＰＤＣＡといいますけれど、繰り返してよりよいものにしていくか、その辺が問題ではないかと思います。
　ここまで、各委員から多くの意見を頂戴いたしました。それでは全体通して、教育長からもお話いただきたいと思います。

【吉野教育長】
　それでは、私の方からお話をさせていただきます。
　まずは、コロナウイルス感染防止のために学校がとった措置、例えば臨時休養、夏休みの短縮、学校行事の中止や延期、形を変えた上での実施など、子どもたちや保護者の皆様には大変な御心配、御苦労をおかけしました。皆様方に御協力、御支援いただいたこと対して心から感謝を申し上げます。
　また、子どもたちの安心・安全を第一に考えながら、日々の消毒、学習課題の作成、子どもたちの心のケア、授業の工夫など多岐にわたって工夫を重ね、知恵を出し合いながら教育活動に取り組んでいただいている先生方に対しても、心から感謝を申し上げたいと思います。
　更にこのような状況の中で、温かく子どもたちを見守っていただいている地域の方々や教育関係者、そしてともに働く私たちの仲間にも感謝を申し上げたいと思います。
　このように、教育現場ではコロナウイルス感染防止のために多くの犠牲を払ってきましたが、逆に得たものもあったのではないかと思っています。例えば、卒業式などの式典の在り方です。これまで、ほぼ例年と同じ形を踏襲して実施してきましたが、コロナの感染拡大防止のため、参加者や開催時間、内容等を見直して実施しました。学校行事や日々の教育活動、会議の持ち方についても然りです。
　これまで当たり前に取り組んできたことが、変更や中止を余儀なくされることにより、これが本当に必要なものなのか、何のために実施しているのかという本質について教員や我々が真剣に考えるようになりました。そういった意味では、教育の原点に立ち返ったり、新しいことにチャレンジしたり、状況に応じて柔軟に対応したりするいい機会になったのではと考えています。
　私は、教育というものは人と人とがふれあう中で成り立っているものであると考えます。授業、部活動、学校行事、教育活動のすべてが人と人、人と自然などとのふれあいを基盤として成立していると思っています。しかしながら、コロナ禍で、このふれあい教育ができない。ではどうしたらいいのか。そのような状況を打破していくには、ＩＣＴを活用した教育を進めていくこと、これが大変効果的であることがここで再確認されたのでは

ないかと思っています。
　ここで、端末が子どもたち一人一人に配備され、ＩＣＴを活用した教育が本格的にスタートします。新たに整備される環境をいかに有効活用して、子どもたち一人一人の未来に向けた学習指導、質の高い教育、今回のような緊急時での活用を今後どのようにしていくのか、しっかりと考えながら進めていきたいと思います。
　また、授業以外でも、学校行事などは子どもたちの目線に立った取組がより一層求められていると思います。感染状況にもよりますが、ただ単に自粛するということだけでなく、感染症対策を徹底する中で学校行事などを行うためにはどうしたらよいのかということを、子どもたちの心情に寄り添いながら、そして学校と一緒に考えながら進めていきたいと思っています。
　部活動についても、今年度は大会を中止や縮小をせざるを得ない状況となりましたが、ただ単に毎年やってきたから今年もやるのではなくて、本当に必要なものかどうかということについてこれを機にきちんと考え直しながら進めていくことが大切であると思います。
　そして、先ほど目黒委員からもお話がありましたが、大切にしていかなければいけないのは目に見えない心の健康です。いろいろなストレスにさらされている子どもたち、そして日々子どもたちのために正面から取り組んでいる先生方の心のケアについても十分な対応をしていきたいと考えています。
　残念ながらコロナ禍は今後もしばらくの間続いていくものと思います。これまでの経験をもとに、今後どうしていくべきなのかを、子どもたちの安心安全を第一に考え、子どもたちの目線に立ち、学校現場と教育行政が連携しながら平塚の教育を前に進めていまいります。どうぞよろしくお願いします。

【落合市長】
　ありがとうございました。今、教育長がおっしゃられたように、コロナはまだ続くと思います。これは我々も、子どもも、先生方も、初めての経験ですので、ある部分では手探りで、何がいいのかを探りながら、進めてきてもらったと思っています。ですから、冒頭に帰りますけど、本当に関係者の皆様には御苦労いただいたのは改めて感謝を申し上げたいと思います。また、緊急事態宣言が出てからもう半年以上経ちますので、私は先日、この場所で行った「対策会議」の中で、「中間にはなるのだろうが、振り返りをしっかりともう１回する方がいいのではないか。特に、緊急対策、総合対策、総合対策の補完版を合わせて約５０億のお金を使っていろいろな対策をしています。そういうことも含めて、市民や子どもたちに対して、もう１回振り返りというか、総括みたいなものもやってほしい」とお願いをしました。
　手探りであったけれども、教職員に対応してもらい、平塚の子どもたちにとってより良い未来ができつつあるのではないかと思っております。
　今、教育長からお話がありましたが、コロナのために分かったこともある一方、言い方は悪いが、これをチャンスと捉えて、平塚を支える次代の子どもたちのために、どういうことをしたらいいかということを、大人の我々がしっかりと考えて、対応していければありがたいと思っています。
　また、基本的に学校というのは子どもたちが集って、学んで関わり合い、いろいろな体験をすることで、成長していくところだと思っています。先ほど教育長が言われたように、このコロナ対応の中では、このＩＣＴ環境をしっかり整えて、しっかりとした学びを保障していくことが大切だと思います。
　さらに、子どもたちはその親御さんたちだけではなくて、地域で育てるというようなこともいわれます。
　今、平塚市内の各自治会の連合会長さんたちとの対話集会で、各地区のいろいろな状況も含めた地域活動のお話を伺っています。課題も伺っていますが、地域の人たちは、見守りなどいろいろなことを子どもたちにしていると思います。地域の人は「子どもたちは宝

だから」とよく言ってくれますが、そういう活動ができないのも辛いところです。でも、何とか親御さんも含めて地域の人たちも一緒に子どもたちを育てていこうという思いがありますので、その活動については、ぜひとも御協力くださいと私からもお願いをしています。

特に、自治会活動や子ども会の活動はやりたいけれど、もしコロナが起きたらどうしようかという責任があるから、立ち止まってしまうかもしれません。でも、先ほどお話しましたように、もうこれからは何もかもやめて動かなくするという時期ではないと思います。

いろいろなことにしっかりと安全対策をしながら、どのように動きを作っていくか、経済を回していくか、これをしていかないと「将来の平塚、子どもたちはない」というふうに思いますので、どうか皆様方も御支援、御尽力をよろしくお願いを申し上げます。

いろいろ皆様から御意見をいただき、本当にありがとうございました。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、将来を支える、総合教育会議で決めていただいた「未来の礎を築く教育のまちひらつか」その未来を、礎を築く子どもたちのために、改めて御尽力いただきますようお願いいたします。我々も教育委員会と連携して、しっかりとした、子どもの環境作りを進めていきたいと思いますので、引き続き御指導をお願い申し上げます。

４　閉会

【総務部長】

長時間にわたりありがとうございました。それではこれをもちまして、令和２年度第１回平塚市総合教育会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

以　上